

「元気発進！子どもプラン（第2次計画）」個別事業の評価一覧

事業の評価													予算			担当課
■ 施策(11) 社会的養護が必要な子どもへの支援													予算			
柱 番号	事業 番号	事業名	事業概要	前年度の評価を踏まえての改善	27年度の 事業計画	27年度の主な実績	【Do】実施			評価	【Check】評価 理由(分析)	【Action】改善 次年度以降の課題や改善内容	予算			備考
							活動指標	区分	27年度				28年度	29年度	予算 事務事業名	
1	238	児童養護施設 処遇改善事業	児童養護施設を対象に、発達障害児 や知的障害児などの処遇困難児を受け 入れる人数に応じて、職員を加配する 費用を補助し、処遇困難児への必要な ケアと他児の処遇の質を確保する。あ わせて、職員配置の充実を図る。	・処遇困難児への必要なケ アと他児の処遇の質を確保 するため、職員配置の拡充 を図る。	①児童養護施設 への職員加配費 補助	①11人の職員加 配。	加配する職員数 【現状値】 9人 (H26年度) 【目標】 適切な加配	区分 27年度 28年度 29年度	適切な加 配 適切な 加配 適切な 加配	順調	・職員を加配する費用を補助すること により、処遇困難児への必要なケアと 他児の処遇の質を確保できた。	・処遇困難児への必要なケアと他児の 処遇の質を確保するため、引き続き職 員配置の拡充を図る。	児童養護施設 処遇改善事業	決算 23,875 予算 28,722		子家・ 子育て支援 課
1	239	地域小規模児 童養護施設・ 小規模グル ープケアの実 施(児童養護 施設等措置費)	児童養護施設等において、家庭的な 環境の中で職員との個別的な関係を重 視したケアを提供するため、小規模なグ ループ(原則6名以内)によるケアを実 施する。	・整備目標達成に向けて、 各施設に整備を働きかけ る。	①地域小規模児 童養護施設・小規 模グループケアの 運営 ②地域小規模児 童養護施設・小規 模グループケアの 整備	①実施箇所数 小規模グループ13 か所 地域小規模児童 養護施設 2か所 ②地域小規模児童 養護施設 1か所開設	地域小規模児童養 護施設・小規模グ ループケア実施か 所数 【現状値】 11か所 (H25年度) 【目標】 23か所 (H31年度)	区分 27年度 28年度 29年度	現状値 比増 前年度 比増 前年度 比増	順調	・地域小規模児童養護施設について 1ヶ所整備を行った。	・小規模グループケアは、児童を小規 模の落ち着いた環境の中で生活させ、 児童に決め細やかなケアを実施でき ることから被虐待児等への支援として有 効であり、引き続き各施設に整備を働 きかける。	児童養護施設 等措置費	決算 1,905,670 の一部 予算 1,954,669 の一部		子家・ 子育て支援 課
1	240	自立援助ホ ームの運営(児 童養護施設等 措置費)	児童養護施設等を退所し、就職する 児童に対し、共同生活を営む住居にお いて、相談その他の日常生活上の援助 および生活指導、就職支援を行うこと で、社会的自立の促進に寄与する自立 援助ホームを運営する。	・児童養護施設等を退所 し、就職する児童に対し、 日常生活上の援助及び生 活指導、就職支援を行い、 社会的自立を促す。	①自立援助ホ ームの運営	①自立援助ホ ームの運営 卒園者3人	就職等自立児童 数 【現状値】 7人 (H25年度) 【目標】 増加	区分 27年度 28年度 29年度	現状値 比増 前年度 比増 前年度 比増	順調	・今年度は入所者が少なかったため、 自立に至った児童の数も前年度から 減少したが、日常生活上の援助及び 生活支援等を行い、卒園児等の自立 までの居場所、自立支援に寄与してい ることから、「順調」とした。	・児童養護施設等を退所し、就職する 児童に対し、引き続き支援を行い、社 会的自立を促す。	児童養護施設 等措置費	決算 1,905,670 の一部 予算 1,954,669 の一部		子家・ 子育て支援 課
1	241	児童養護施設 等入所児童へ の運転免許取 得費助成など 自立支援事業	児童養護施設等の退所を控えた児童 等を対象に、普通自動車運転免許取得 費や就職に有利な資格取得費の一部 を助成することにより、児童の自立を支 援する。 また、大学等の入学金の助成や生活費 の支援を行い、進学に希望にこたえる。	・事業を継続実施し、対象 児童の自立を支援する。	①運転免許取得 希望者への助成 ②資格取得希望 者への助成	①助成額:4,400,000 円 助成人数:20人 ②助成額:28,660円 助成人数:15人	運転免許取得者 数 【現状値】 18件 (H25年度) 【目標】 増加	区分 27年度 28年度 29年度	現状値 比増 前年度 比増 前年度 比増	順調	・就職時に有利になる資格の一つであ る自動車運転免許取得及びその他資 格の取得は、入所児童の自立を促進 する上で有効であり、申請のあった児 童全員に各種助成を行うことができ た。	・自動車免許運転免許の取得やその他 資格の取得は、就職の際に有利である が、入所児童等にとって金銭面での負 担が大きいため、事業を継続し、引き続 き助成を行うことにより、入所児童等 の自立を支援する。	児童養護施設 等入所児童 自立支援 事業	決算 19,433 予算 21,034		子家・ 子育て支援 課

事業の評価													予算			担当課	
■ 施策(11) 社会的養護が必要な子どもへの支援													予算			※太字が評価を記載した課	
柱番号	事業番号	事業名	事業概要	【Plan】計画		【Do】実施				【Check】評価		【Action】改善	予算				
				前年度の評価を踏まえての改善	27年度の事業計画	27年度の実績	活動指標			評価	評価の理由(分析)	次年度以降の課題や改善内容	予算事務事業名	決算額・次年度予算額【千円】	備考		
						区分	27年度	28年度	29年度								
1	242	児童養護施設入所児童等の身元保証人確保対策事業	施設入所児童等が就職や住宅を賃借する際、施設長等がその保証人を引き受けやすくするため、その損害賠償等を補償する保険に自治体負担で加入し、施設入所児童等の退所後の自立を促進する。	・必要に応じて支援する。	①身元保証人に対する保険加入	①保険加入14人	身元保証人確保対策事業利用者数 【現状値】 13人 (H26年度) 【目標】 -	必要に応じ支援	必要に応じ支援	必要に応じ支援	順調	・希望する児童等全てに対し支援できている。	・必要に応じて支援する。	児童福祉施設総合支援事業	決算 437 予算 1,170		子家・子育て支援課
1	243	入所児童の権利擁護のための調査審議等を行う審査部会の社会福祉審議会児童福祉専門分科会への設置	市内の児童養護施設等で発生した被措置児童等への虐待に対し、入所児童の権利の侵害を救済し、心身の健全な成長を図るため、その権利の擁護に向けた調査審議等を行い、市長に対して対応方針等について意見を述べます。	・必要に応じて開催する。	①社会福祉審議会児童福祉専門分科会の開催	①H27年度の開催なし	会議の開催 【現状値】 - 【目標】 -	必要に応じ開催	必要に応じ開催	必要に応じ開催	順調	・平成27年度の開催はなかったが、措置児童等に対する虐待事案が発生した際の諮問調査機関であるため、有効性は高い。	・必要に応じて開催する。	予算なし			子家・子育て支援課
2	244	ファミリーホームの運営(児童養護施設等措置費)	家庭的養護を促進するため、保護者のいない児童などに対して養育者の住宅を利用し、児童の養育・自立支援を行う。あわせて、ファミリーホームの普及・促進に努める。	・ファミリーホームの整備を行う。	①ファミリーホームの運営 ②ファミリーホームの整備	①②実施か所数:6か所から7か所へ増加	実施か所数 【現状値】 6か所 (H25年度) 【目標】 11か所 (H31年度)	現状値比増	前年度比増	前年度比増	順調	・ファミリーホーム実施か所数も増え、事業が予定どおりに進んでいる。	・家庭的養護を促進するため、引き続きファミリーホームの整備を推進する。	児童養護施設等措置費	決算 1,905,670の一部 予算 1,954,669の一部		子家・子育て支援課
2	245	里親促進事業	家庭での養育に欠ける児童に対して、家庭的な環境の下で愛着関係を形成しつつ養育を行う里親委託を推進するため、制度の普及啓発や里親への支援を総合的に実施する。	・里親・ファミリーホーム委託の推進	①里親登録者増加のための普及啓発活動の実施	①里親制度の普及啓発活動を行った。 ・市政だよりやホームページ、地域情報誌等への掲載 ・出前講演 7回実施	現状値比(14.2%)増加	前年度比増加	前年度比増加	順調	・要保護児童に対する里親等委託率も目標値を上回り、また、制度の普及啓発や登録里親への研修会や交流会を実施し、里親等を支援・促進することができたことから、「順調」とした。	【課題】 ・里親登録者数の増加 ・里親の資質向上 ・里親の孤立化防止 ・里親委託率の向上 【改善】 ・里親制度のさらなる普及啓発 ・登録里親へのより有効な研修会等の実施 ・里親等への総合的、継続的な支援	里親促進事業	決算 3,094 予算 3,792		子家・子ども総合センター	
2	246	家庭生活体験事業(一日里親事業)の充実(児童養護施設等措置費)	児童養護施設に入所している児童に温かい家庭生活を体験する機会を設け、児童の社会性の涵養や情緒の安定、退所後の自立を促進する。	・児童養護施設等入所児童に家庭生活を体験させる当事業を推進し、児童の社会性の涵養、情緒の安定、退所後の自立を促進する。	①一日里親事業の実施	①一日里親事業の利用児童:378人。	家庭生活体験児童数 【現状値】 364人 (H26年度) 【目標】 -	-	-	-	順調	・体験生活児童数が増加し、希望する児童養護施設の入所児童全員を家庭生活体験事業に参加させることができた。	・児童養護施設等入所児童に家庭生活を体験させる当事業を推進し、児童の社会性の涵養、情緒の安定、退所後の自立を促進する。	児童養護施設等措置費	決算 1,905,670の一部 予算 1,954,669の一部		子家・子育て支援課